

# MAX WASH®

## 特徴

マックスウォッシュは生分解性成分を使用している為、分解過程で微生物のエサとなり環境汚染の心配がありません。業界初のプロピオ酸と各種有機酸を使用する事で、芝生の生育にダメージを与える事なく、土壤中の撥水を解消します。根系に到達したマックスウォッシュは、土壤粒子表面に付着した撥水物質（土壤の撥水性『疎水性』）の原因は長期にわたって土壤粒子の表面に生じる有機非極性粘着性膜の堆積や、植物残渣の好気性及び嫌気性微生物が有機物の分解過程で発生した有機酸が極端な乾燥状態になると発生する）である非水溶性の油分・ワックス・難溶性塩類を、速やかに可溶化除去し、撥水を回避します。溶解した難溶解性塩類の一部は植物に吸収されます。低気泡性ですから、タンク内及びグリーン上での発泡トラブルがありません。使いやすい1L容器（エコ容器）入り。ゴミの減量化にも貢献致します。

## 使用方法



標準散布 1,000倍液 水量:1~2.5 ℥ (1~2.5cc/m<sup>2</sup>)

土壤浸透剤と混合散布するとより一層効果が高くなります エアレーション直後の散布はより効果的です



スポット散布 500倍液 水量:1~2 ℥ (2~4cc/m<sup>2</sup>)

500倍でも散布可能ですが高温時は注意が必要です 乾燥状態が強い場合は1週間に数回部分散布して下さい

通常希釈倍率では各種酵素活性阻害が無い為、酵素剤との併用が可能です

低温期のベント及びグリーン周り・TEEの高麗に使用する場合は強力タイプのマックスウォッシュSを御使用下さい

## より効果的な使用方法

- ・浸透剤との混合散布をお勧め致します。マックスウォッシュを素早くLDSエリアに浸透移行させます。
- ・雨中散布がより効果的です。雨による重力水が、団粒と団粒との間の大きい隙間にある水で、重力によって地下に浸透します。…重力水が流れ去ったときの水分量を圃場容水量は芝生が最も吸収しやすい水です。
- ・エアレーション時、穴が開いている時が、浸透効率が高くより効果的で、LDSを見つけやすい。
- ・改善が見られない場合は、2日~3日後に洗浄を繰り返して下さい。又必要に応じて使用量を変えて下さい。連用しても問題は有りません。
- ・散布前・後の散水は十分に行い、2~4回に分けて散水する事により、表面を流れる水が減り浸透効果が高くなります。
- ・冬場~春先の乾燥時期の対策がより効果的です。
- ・エアレーションやサッチ分解材等を併用する事でサッチ・ルートマット・枯死根といった有機残渣を還元させやすくする。
- ・LDSで落ち込んでいる箇所には、マックスウォッシュを散布し乾燥状態が解消した後に、活力剤や腐植酸を使用して土壤環境を整える事により、水分保持の改善がよりスムーズになります。水の通過性が改善されます。

## 比較試験 右側写真

試験日:2008年3月 Rゴルフ場 No8 ペンクロスペントグラスグリーン

比較試験-1 ソイルサンプラーによる撥水土壤を浸水比較試験…ルートマット部分が一番透水性が悪く撥水しやすい。24時間後も全く浸透しない。コントロール区水の表面に撥水して砂が浮かんでいる。

比較試験-2 ホールカップによる撥水土壤の通水比較試験

…水1ℓ通過後に部分的に漏れる場所は有るが、半分に切断すると結果が分かりやすい。切断時に撥水した砂が散らばっている。エアレーションの穴部分は水が浸透している。

比較試験-3 現場フィールド試験通水比較(使用グリーン)

…実際使用グリーン半分に、マックスウォッシュを散布。その後20分散水し翌日も20分散水その後にソイルサンプラーによるサンプリング調査。ルートマット迄は水が浸透しているが、下層部分は撥水。下層部分の砂はぱさぱさである。

LDS発生の原因是フェアーリングに起因している場合が多いが、全てでは無い。

フェアーリングが先か撥水が先かは、現在わかりません!!

Check Point!

- ・朝露の上がりが悪い場所やLDSの症状が露呈しているターフに、グリーンフォーク等で土壤の匂いを嗅ぐと、キノコ臭がする。
- ・症状が進行している場合は、散水するとキノコ臭が周囲に漂う。
- ・グリーン周りのカラーやその外周に、踏圧で擦り切れている場所以外の生育不良や乾燥箇所が見られる場合は、注意が必要。
- ・冬時期にグリーン表面の霜の乗り方がまばら場合は、土壤中が乾燥している場合が多い。

## test 比較試験1 ソイルサンプラー



## test 比較試験2 ホールカップ・切断面



## test 比較試験3 フィールド



propionic acid